



2016年7月30日・新潟競馬場 デビュー戦のパドック

小島友実の あの馬の STORY



ヴァニラエッセンス

「初めてこの馬を見たのは昨年夏頃です。ワーカーフォース産駒にしては小柄なタイプ。動きが柔らかく皮膚が薄くて上品な感じの馬でしたね。育成は順調で今年6月に美浦へ入厩。ゲート試験も1回で合格しました。ただ調教の動きに非力な所があり、平坦コースがいいだろうと考へ、新潟競馬場の芝1400mでデビューしたのです」

この新潟での初戦は12着でした。

「後方からのレースで直線はいの馬なりに伸びるもの12着。どこかで速い脚を使う所を見せてくれたのも良かったのですが、差を詰めてきていました。次が展望できる内容でしたね」

師匠はこの初戦を見て「距離を伸ばしてもらいたい」と感じた事から、2戦目は新潟の芝1600mに向かいました。「使った後も緩めずに、2戦目に向けて初戦同様の負荷をかけた分、マイナス体重での出走になつました。状態自体は良くないままでした。ただ、スタート後に左右の馬に挟まれる形になりました。直線ではじわじわ伸びていった分、もう少し前にひけられていたら差は詰まらなかったと思します」

今回、紹介するのは開業2年目、獣医師資格を有している竹内正洋調教師が管理するヴァニラエッセンスです。10月末の段階で残念ながらまだ初勝利を手に出来ていないのですが、色々、竹内調教師にお話を伺いました。

「初めてこの馬を見たのは昨年夏頃です。ワーカーフォース産駒にしては小柄なタイプ。動きが柔らかく皮膚が薄くて上品な感じの馬でしたね。育成は順調で今年6月に美浦へ入厩。ゲート試験も1回で合格しました。ただ調教の動きに非力な所があり、平坦コースがいいだろうと考へ、新潟競馬場の芝1400mでデビューしたのです」

この新潟での初戦は12着でした。

「後方からのレースで直線はいの馬なりに伸びるもの12着。どこかで速い脚を使う所を見せてくれたのも良かったのですが、差を詰めてきていました。次が展望できる内容でしたね」

師匠はこの初戦を見て「距離を伸ばしてもらいたい」と感じた事から、2戦目は新潟の芝1600mに向かいました。「使った後も緩めずに、2戦目に向けて初戦同様の負荷をかけた分、マイナス体重での出走になつました。状態自体は良くないままでした。ただ、スタート後に左右の馬に挟まれる形になりました。直線ではじわじわ伸びていった分、もう少し前にひけられていたら差は詰まらなかったと思します」

「(うちの厩舎)は朝と午後に2回ずつの計4回飼葉です。自然の環境で過ごす馬は、走ったり、寝たり以外は殆ど草を食んでいますよね。本来、馬は食べ続ける動物で、胃の中に常に食べ物があるのは自然な事。空腹時間が長くなり、胃潰瘍になりやすくなるリスクが増えると言われています。ですから

このレースの後はやけにトレーニングペースで放牧に出たが、ワーカーフォース。今後の課題などもじっくり見てくるのでしょうか。レースを経験した強みは活きしていくねはまだし、この体養育成長していく事を見守っておきましょう。今後は11月、福島の一週間の間の1400mを復帰戦に予定している。非力なタイプでは瞬発力がそんなに高くなれない事を考えると、この条件は合つてきました。あとは馬体がもう少し大きくなればいいのです。骨格が小さめの馬で劇的に大きくなれないでしょ?」

410~420kgの間でレースが出来るようになれば良いですね」

小柄な牝馬の場合は、どうしても飼葉食いと体重の問題がつぶつと回りますが、冒頭にも書いたように竹内調教師は北里大学の獣医学部出身で獣医師資格を所有しており、専門的な知識を利用しつつ、こんな工夫を取り入れています。

「適切なレースを走りながら体力を強化していく。2000m×1前後の競馬に対応出来るようになれば、今後も楽しめるところです。勝てる能力を持つていて馬たまに思いますが、初勝利を獲得してしまったので、初勝利を強調してしまったので、頑張ります」

「(うちの厩舎)は朝と午後に2回ずつの計4回飼葉です。自然の環境で過ごす馬は、走ったり、寝たり以外は殆ど草を食んでいますよね。本来、馬は食べ続ける動物で、胃の中に常に食べ物があるのは自然な事。空腹時間が長くなり、胃潰瘍になりやすくなるリスクが増えると言われています。ですか

る乾草を馬腹に呑むなど、施設食べられ環境を作っています。

また、水桶や飼葉桶は斜歯の予防の観点から、馬が本来食べやすい下の方に設置しているそうです。胃潰瘍になれば、それだけ十分に飼葉が食べられます。そういうれば、調教での馬に

テープルに放牧へ出たが、ワーカーフォース。今後の課題などもじっくり見てくるのでしょうか。レースを経験した強みは活きていくねはまだし、この体養育成長していく事を見守っておきましょう。今後は11月、福島の一週間の間の1400mを復帰戦に予定している。非力なタイプでは瞬発力がそんなに高くなれない事を考えると、この条件は合つてきました。あとは馬体がもう少し大きくなればいいのです。骨格が小さめの馬で劇的に大きくなれないでしょ?」

410~420kgの間でレースが出来るようになれば良いですね」

小柄な牝馬の場合は、どうしても飼葉食いと体重の問題がつぶつと回りますが、冒頭にも書いたように竹内調教師は北里大学の獣医学部出身で獣医師資格を所有しており、専門的な知識を利用しつつ、こんな工夫を取り入れています。

「適切なレースを走りながら体力を強化していく。2000m×1前後の競馬に対応出来るようになれば、今後も楽しめるところです。勝てる能力を持つていて馬たまに思いますが、初勝利を獲得してしまったので、頑張ります」

「(うちの厩舎)は朝と午後に2回ずつの計4回飼葉です。自然の環境で過ごす馬は、走ったり、寝たり以外は殆ど草を食んでいますよね。本来、馬は食べ続ける動物で、胃の中に常に食べ物があるのは自然な事。空腹時間が長くなり、胃潰瘍になりやすくなるリスクが増えると言われています。ですか

profile

グリーンチャンネル「トランクマンTV」(毎週金曜 19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。